

平成31年度 校内研修計画

大藤小学校

1 学校課題

大藤地区は、甲州市塩山地区の東部に位置し、古くから、桃、すもも、ぶどう等の果樹栽培がさかんな緑豊かな地域である。地域の方々や保護者は、学校教育に協力的で、児童は総合的な学習をはじめとする様々な教科のなかで、安心して地域に出て学習している。また、読み聞かせやふれあい集会等で、地域の方が定期的に学校に来て、児童とふれ合う活動もある。

全校児童数は39名で、年々減少している。今年度から2、3学年と4、5学年が複式学級となり、学習支援講師を配置していただいて国語・算数等の教科は単級にて指導している。6学年は、13名だが、それ以外の学年は一桁である。

学年の人数が少ないので、休み時間などは異学年で一緒に遊び、上の学年の児童が下の児童のサポートをして、全校児童が仲が良い。その反面、競争心に欠け、場に応じた対応ができないことが課題としてあげられる。自ら考え、判断し、行動する児童を育てていきたい。

2 研究主題

「主体的に表現する児童の育成」
～小集団における「主体的・対話的で深い学びの実現を通して～

3 主題設定の理由

(1) 社会の要請から

これからの社会は、予測困難な時代と言われている。未来を生き抜いていく子どもたちには、自ら課題を見つけ、自ら学び、考え、判断して行動する力や他者と協働し新たな価値を創り出す力を身に付けることが求められている。そのために、主体的・対話的で深い学びの実現を通して、これまでの経験を使ってこれからの解決策を考えることができる児童の育成が学校教育に期待されている。

(2) 山梨県及び甲州市の学力向上の取組から

全国学力・学習状況調査の結果から、相手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べて、自分の言葉で表現することが課題であることが明らかになった。また、NRT検査では、国語においては「言語文化と国語の特質」に、算数においては「量と測定」に課題があった。一人一実践では、全職員が山梨スタンダードの②話し合い、討論、発表などの言語活動を効果的に取り入れることを意識して取り組んだ。その結果、児童は、自力解決にて多様な考えが導き出されるようになった。集団解決では、グルーピングの工夫が自己の考えを広げたり深めたりするのに有効であることが分かった。

甲州市「確かな学力」育成プロジェクトに関わっては、河村茂雄先生の学習会から児童一人一人を意識したhyper-QUの分析をすることができた。家庭学習スタンバイも、全校で実施することができるようになり、児童も自主的に取り組むようになった。

(3) 昨年度の研究から

本校の校内研究は、「主体的に表現する児童の育成」という研究主題を掲げて2年目になる。昨年度は、hyper-QUの分析を中心に児童理解をすすめ、本校の特性である少人数を生かした、児童一人一人を大切に授業された。その結果、「一人一実践において研究したことを授業に落とし込み、その反省をもとにそれぞれが事後の実践に生かすことができた。」「全校の児童の様子がわかり、全員で研究に取り組むことができた。」等の成果があった。課題としては、「どうやって主体的に表現させるのか」「主体的・対話的で深い学びについて本校ではどう捉え、授業改善していくのか」等があげられた。研究授業では、グループ学習の工夫により全体的には児童の表現力は改善されたが、本校としての「主体的な表現」にまで迫ることはできなかった。

昨年度の研究を受けて、さらに一人一人の個性を認め、生き生きと活動する児童の育成を目指す。また、少人数を生かした児童全員が主役になる「主体的な学び」を追究していく。

4 研究の具体的内容と方法

- (1) **授業づくり**・・・学力の実態把握と少人数や集団における効果的な学習方法と授業実践
 - ・NR T検査、全国学力・学習状況調査を分析して、学習面の成果を把握し、課題を明確にして今後の授業改善に生かす。
 - ・各種調査で明らかになった児童の課題を改善するための効果的な学習方法の実践をする。
 - ・指導主事を招聘しての授業研究の実践と一人一実践の取組。(11月までに年間研究計画に入れる)
 - ・講師を招聘しての研修。小集団における「主体的・対話的で深い学び」の効果的な学習方法について
 - ・少人数や小集団、個を生かした「主体的・対話的で深い学び」の実現のための授業実践と検証。(コミュニケーション、ICTの活用も含む)
 - ・甲州市Teacher's Noteの活用
 - ・めあてと目的を明確にした一人一実践
 - ・授業におけるICT(iPad, edutab, TV会議システム等)の効果的な活用
- (2) **学級集団づくり**・・・児童の実態把握と集団づくり
 - ・hyper-QUを生かした児童理解と集団づくり。PDCAサイクルを活用。
 - ・K13法を用いたhyper-QUの結果分析とアタックシートを活用した集団づくりを行う。児童一人一人を丁寧に見とり、個を大切にする。
 - ・アタックシートの対応策には、学年全体だけでなく、要支援群に属する児童や、プロットの位置が教師の見とりと違う児童を中心に置いた策も考える。
 - ・全体でK13法を使って分析・考察を行う。

- (3) **学びを促す環境づくり** . . . 学校生活の基盤づくり
- ・「大藤スタンダード」「家庭学習の手引き」「家庭教育実践事例集」「家庭教育 子育てQ&A」を活用した家庭学習の効果的な実践の取組。
 - ・5つの合言葉の具体的な場面での取組を実践。学年に応じた「大藤スタンダード」の徹底。
 - 〈わくわく〉 . . . 勉強のスタートは、驚きや疑問、楽しく学ぶ。
 - 〈のびのび〉 . . . 何事も夢中である。徹底してする。
 - 〈なかよし〉 . . . いじめや仲間外れを生まない集団でいよう。
 - 〈にこにこ〉 . . . あいさつ、返事をしっかりする。
 - 〈いきいき〉 . . . 自ら考えて行動する。自分で決めて、自分で守る。
 - ・「ふじっこノート」の年間を通しての実施をする。
 - ・家庭学習スタンプの時間を帰りの会の前にとる。
 - ・家庭学習と授業を有機的に結びつけ、知識探求や学習の復習をする。
 - ・ノートが終わったら、校長先生にも見てもらう。校長室前に積んでいく。
 - ・ふじっこノートをコピーして、1年教室の廊下に学年ごと掲示する。
 - 1～5学年 . . . 2枚（1学年は2学期から掲示する）
 - 6学年 . . . 4枚
 - ※担任が掲示する。学びをうながす点から、良いところやポイント等を入れる。
 - ・毎週水曜日の朝学習は、1年廊下の算数プリントを行う。個々の能力に応じてできるので、目標を設定して、計算の基礎・基本の力を付け、計画的に学習をすすめる自主性を養う。
 - ・「大藤スタンダード」に基づき、生活面や学習規律の統一を行う。

5 年間研究計画

| 回数 | 研究テーマ | 教科・領域 | 担当 | 学年 | 授業時期 | TC要請 |
|----|---|-----------------|-------------------------------|----|------|------|
| 1 | 4 / 3 昨年度の状況について | | 堀内 | 全 | | |
| 2 | 4 / 10 本年度の方向性について | 授業改善 | 堀内 | 全 | | |
| 3 | 4 / 17 本年度の学校課題, 研究主題, 研究内容・方法, 年間計画等について | 授業改善 学級集団づくり | 堀内 | 全 | | |
| 4 | 4 / 24 校内研究の確認 | 授業改善 学級集団づくり | 堀内 | 全 | | |
| 5 | 5 / 15 K13法によるhyper-QUの分析 (全校・1, 2, 3学年) | 学級集団づくり | 堀内 1, 2, 3 学年 | 全 | | |
| 6 | 5 / 29 K13法によるhyper-QUの分析 (4, 5, 6学年) | 学級集団づくり | 堀内 4, 5, 6 学年 | 全 | | |
| 7 | 6 / 17 K13少人数における「主体的・対話的 で深い学び」の実践例 | | | | | |
| 8 | 7 / 10 NRTの分析 『学力調査をふまえた授業改善のための説明会』 | 授業改善 学級集団づくり | 2, 3, 4 , 5, 6 学年 川野 | 全 | | |
| 9 | 8 / 16 教育課程研修還流報告会 | 授業改善 | 各担当 | 全 | | |
| 10 | 9 / 4 全国学力・学習状況調査・県学力把握調査の 分析と課題の把握 | 授業改善 | 川野 | 全 | | |
| 11 | 9 / 11 学年の課題解決のための学習計画づくり (一校一実践シートより) | 授業改善 | 担任 | 個 | | |
| 12 | 9 / 25 学年の課題解決報告会 | 授業改善 | 担任 | 全 | | |
| 13 | 10 / 2 第○学年授業案検討 | 授業改善 | | 全 | | |
| 14 | 10 / 9 第○学年授業案検討 | 授業改善 | | 全 | | |
| 15 | 10 / 16 第○学年研究授業 | 授業改善 | | ○年 | 10月 | ○ |
| 16 | 11 / 13 K13法によるhyper-QU (全学年) | 学級集団づくり | 担任 | ○年 | | |
| 17 | 1 / 29 研究紀要作成について 研究の成果と課題について (提案) | | 堀内 | 全 | | |
| 18 | 2 / 26 研究の成果と課題について | 学級集団づくり 授業改善 | 堀内 | 全 | | |
| 19 | 3 / 4 県指導重点について | 学級集団づくり 授業改善 | 校長 | 全 | | |
| 20 | 3 / 11 研究紀要製本 | | 堀内 | | | |

